

平成 29 年 1 月 13 日
住宅局安心居住推進課
住宅局住宅生産課

住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する調査の中間報告 ～スマートウェルネス住宅等推進事業の調査の実施状況について～

国土交通省では、平成 26 年度からスマートウェルネス住宅等推進事業により、住宅の断熱化が居住者の健康に与える影響を検証する調査への支援を行っております。この度、平成 27 年度までに得られた調査データに基づき、検証結果（室内環境と血圧など健康関連事象）について、実施事業者が中間報告を行います。

1. 調査全体の概要

- 事業期間 : 平成 26～29 年度（4 年間）（予定）
- 検証内容 : 断熱改修を予定する全国約 1,800 軒の住宅および居住者約 3,600 人を対象として、改修の前後における、居住者の血圧や生活習慣、身体活動量など健康への影響を検証する
- 実施事業者 : (一社) 日本サステナブル建築協会（平成 26～28 年度の実施事業者^{※1}）
（全国各地の医学・建築環境工学の学識者からなる委員会（スマートウェルネス住宅等推進調査委員会^{※2}）を設置）

※1 : 今回の中間報告は平成 27 年度末までの成果に基づき得られた知見等に関する内容となります

※2 : スマートウェルネス住宅等推進調査委員会の委員については、別添の名簿をご参照下さい。

2. 中間報告の概要

- 断熱改修を予定する住宅について、平成 27 年度までに 2,759 人の改修前調査を実施するとともに、165 人の改修後調査を実施した。
- 得られたデータに基づき検証を行ったところ、住宅室内環境と血圧など健康関連事象との関連が確認された。
 - ・得られつつある知見-1 : 冬季において起床時室温が低いほど、血圧が高くなる傾向がみられた。（別添資料 : P1）
 - ・得られつつある知見-2 : 高齢者ほど、室温と血圧との関連が強いことが認められた。（別添資料 : P2）
 - ・得られつつある知見-3 : 断熱改修によって室温が上昇し、それに伴い居住者の血圧も低下する傾向が確認された。（別添資料 : P2）
 - ・得られつつある知見-4 : 居間または脱衣所の室温が 18℃未満の住宅では、入浴事故リスクが高いとされる熱め入浴の確率が有意に高い。（別添資料 P3）

※詳しくは、別添の資料をご参照下さい。

3. 中間報告会の開催案内

○中間報告の詳細について、中間報告会を開催致します。

主 催：(一社) 日本サステナブル建築協会

日 時：平成 29 年 1 月 30 日 (月) 13:30~16:30

会 場：J A 共済ビル カンファレンスホール (東京都千代田区平河町 2-7-9)

定 員：300 名

参加費：無料 (登録制)

※中間報告会に関する詳細及び申し込み方法については、下記 URL をご確認ください。

(一社) 日本サステナブル建築協会：<http://www.jsbc.or.jp/>

【中間報告・取材等に関するお問合せ】

スマートウェルネス住宅等推進調査委員会 幹事 伊香賀俊治

(慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科 主任教授)

TEL：045-566-1808 (直通)、FAX：045-566-1770

【本プレスに関するお問合せ】

国土交通省住宅局安心居住推進課 企画専門官 堀崎、 係長 長谷川

TEL：03-5253-8111 (内線 39853)、03-5253-8952 (直通)、FAX：03-5253-8140

国土交通省住宅局住宅生産課 企画専門官 福井

TEL：03-5253-8111 (内線 39436)、03-5253-8940 (直通)、FAX：03-5253-1629